

発行所

社団法人 鹿児島県建築協会

鹿児島市城山町2-13
電話 099-224-5220 FAX 099-227-5479
http://www.kagoken.net/
E-mail:info@kagoken.net



鹿児島けんちく

謹賀新年

これからの建築業を考える

社団法人鹿児島県建築協会 会長 前田 正人



明けましておめでとうございませう。

皆様方には、ますますご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素から当協会の諸活動に対し、温かいご理解・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本経済の厳しい状況は相変わらずで、一昨年の東日本大震災の復興も、遅々として進まず復興事業等における経済効果も一息ついて

明けておめでどうございませう。

皆様方には、ますますご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素から当協会の諸活動に対し、温かいご理解・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本経済の厳しい状況は相変わらずで、一昨年の東日本大震災の復興も、遅々として進まず復興事業等における経済効果も一息ついて



いぶすき菜の花マラソンの一場面(写真提供:指宿市)

た感があります。

世界経済は長引く低迷から中々抜け出せず、円高や、欧州の信用不安も完全には払拭されない中、昨年は尖閣諸島問題で、日中貿易は完全に冷え切っている状態です。

昨年暮れの総選挙で新政権が誕生しました。

新政権には中国、韓国等を始めとする外交問題や、原発 T P P、脱アフレなど大きな課題が山積してありますが、我々の業界の期待は速やかな景気の回復であり、また自民党の掲げる国土強靱化基本法の早期の成立を目指し、我が国の経済社会の発展及び国民生活の安定向上が図られるよう願っております。我々業界として必要は必要な公共投資は確実に、公共事業

界として必要は必要な公共投資は確実に、公共事業

に対する考え方も見直し、近年疲弊している建設業界をもう一度、元氣のある、将来に希望のもてる業界にして頂きたいと願います。

ところで、建築業界は大きな課題をいくつか抱えております。

中でも特に「後継技能者の育成」という大きな課題があります。我々建築関連業界に於いても建築専門業団体と当協会との意見交換や協議等を通じて様々なアイデアを出し、知恵をしばり、取り組んでいくところでありますが、決定打がみつからないのが実情です。我々だけでは自ずと限界があることも承知しております。今後は国、県の政策でも取り上げて頂き、官民共に連携し将来を見据えた取り組みを実施していかないと解決は中々難しいものと思っております。

さらに次世代の建設業を担っていく「後継者の不足」という深刻な問題もあります。建設業に限らず農林水産業などでも同様な状況と思えますが、少子高齢化やこれから先の将来に対する様々な不安要因が重なり建設業を引き継ぎたくないという若者が増えています。建設企業の維持運営が限界のところまで難しくなっている現在、無理も無いことかもしれませんが、将来に対する明るい希望を諦めるわけにはいきません。

少なくとも国、県などから発注される公共工事については、それなりの適正な利益が確保されるようにして頂きたいと思っております。建築工事における現在の積算体系も

抜本的に見直し頂き、例えば一般管理費等の諸経費率のアップや付加利益の別枠設定など様々な角度からご検討して頂けないかと存じます。県や市町村の担当部署におかれましては我々建築関連業界の非常に厳しいこの様な現実をしっかりと認識して頂き、今後の発注工事における改善策として採用出来るものは採用し、また独自に出来ないものは国への要望なども機会を捉えてお願いしたいと思っております。

このように近年は元氣が無い我々建築関連業界ですが、建築協会としましては、前述したことにつきましては、国、県、市町村にも要望して参ります。

ここ数年、鹿児島県、鹿児島市ともある程度の事業量は確保され、ほぼ横ばいで推移しています。我々建築の仕事は形・方向性は若干の違いがあっても永久にゼロにはならないことは明白であり、現在はスクラップアン

ドビルドの時代からストック活用、リフォームの活用という時代に移り変わってきておりますが、これも永久的なものとは考えづらいものがあります。リフォームで長寿命化を図っても、既存の躯体は自ずと耐用年数があり限られております。必要な建築物は年数が経てば建替え、改築ということも発生してくると思われれます。

まさに、低迷しているこの時期こそ将来への生き残りをかけ懸命な努力を惜しまないことが必要です。年初に当たり無駄な力を抜き自然体でこれからの建築業の将来を考えてみたいと思っております。

建築業の発展に向けて

鹿児島県知事 伊藤 祐一郎



平成二十五年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

鹿児島県建築協会におかれましては、安全かつ適正な施工を通じて、本県における建築物の質の向上と建築業の健全な発展のために御尽力いただいておりますことに対し、深く敬意を表します。

また、昨年の奄美地方の台風災害の復旧支援への対応をはじめ、日頃から「社会に

ドビルドの時代からストック活用、リフォームの活用という時代に移り変わってきておりますが、これも永久的なものとは考えづらいものがあります。リフォームで長寿命化を図っても、既存の躯体は自ずと耐用年数があり限られております。必要な建築物は年数が経てば建替え、改築ということも発生してくると思われれます。

まさに、低迷しているこの時期こそ将来への生き残りかけ懸命な努力を惜しまないことが必要です。年初に当たり無駄な力を抜き自然体でこれからの建築業の将来を考えてみたいと思っております。

県民に信頼され地域に貢献する協会として会員一丸となり頑張つて参りたいと存じますので、関係ご当局の一層のご理解とご指導をお願いし、併せて皆様方のますますのご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。挨拶といたします。

奉仕する力強い地場産業を目指し、社会貢献活動等にも積極的に取り組まれていくことに、心から感謝申し上げます。

現在、我が国は、東日本大震災の被災地の復興、エネルギー・環境政策の再構築など多くの問題に直面しております。

経済については、世界景気の減速等を背景として、このところ弱い動きとなっており、さらに先行きについては、欧州や中国における景気の動向やアメリカにおけるいわゆる「財政の崖」による影響など、対外経済環境を巡る不確実性が高く、景気が下振れするリスクが懸念されると

はじめ、エネルギー政策や急速に進む少子高齢化や人口減少、低迷する経済への対応など、数多くの課題が山積し、歴史的に見ても大きな転換期を迎えております。

鹿児島市におきましても、少子高齢化に伴う子育て支援や医療・福祉の充実、地域経済の振興など、様々な課題がございますが、私は、これらの課題に対して市民の皆様と一緒に知恵と創意を結集し、この難局をバネとして、市政の更なる飛躍を目指したいと考えております。

また、鹿児島市を市民の皆様が真に豊かさを実感できる都市にするため、もっと力強く、「もっと前へ」市政を進めてまいりたいと思っております。

さて、我が国においては、東日本大震災からの復興を

はじめ、エネルギー政策や急速に進む少子高齢化や人口減少、低迷する経済への対応など、数多くの課題が山積し、歴史的に見ても大きな転換期を迎えております。

鹿児島市におきましても、少子高齢化に伴う子育て支援や医療・福祉の充実、地域経済の振興など、様々な課題がございますが、私は、これらの課題に対して市民の皆様と一緒に知恵と創意を結集し、この難局をバネとして、市政の更なる飛躍を目指したいと考えております。

また、鹿児島市を市民の皆様が真に豊かさを実感できる都市にするため、もっと力強く、「もっと前へ」市政を進めてまいりたいと思っております。

さて、我が国においては、東日本大震災からの復興を

特に、市民生活を支える機能性の高い快適なまちづくりを進めていくため、今後の計画的な土地利用の誘導方針について検討を重ねていくほか、既存の公共建築物や橋りょう、港湾施設などの都市基盤施設について、計画的な維持保全による長寿命化と、既存ストックの有効活用を図るとともに、土地区画整理事業や市営住宅建設事業を推進し、生活しやすい住環境の形成に努めてまいります。

また、昨年、緊急経済対策として実施いたしました「安心快適住宅リフォーム支援事業」につきましては、五十億円を超える経済波及効果や新たな雇用を生み出すなど、大きな成果をあげたことを踏まえ、新年度においても事業を継続してまいります。

このほか、国内外の都市との多角的な交流ネットワークを構築し、互いに切磋琢磨する中で、歴史・文化・食など、本市ならではのオリジナリティに磨きをかけ、国内外に通じる魅力をもった全国に誇れる、また、次の世代に誇れる素晴らしい都市をつくらせてまいります。

今後とも、第五次総合計画の都市像「八・まち・みどり」みんなで創る「豊かさ」実感都市「かこしま」の実現のため、市民の皆様とともに考え、ともに行動しながら、市政を「もっと前へ」進めてまいります。

本年も市政の推進に、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。すとともに、新しい年が未来への夢と希望の持てる素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

鹿児島市長 森 博幸

新年にあたって

鹿児島県土木部長 栗原 淳一



明けましておめでとう
ございます。
皆様におかれましては、
健康やかな新年を迎え
こととお喜び申し上げます。
また、かねてより、建
設工事の適正な施工や労
働安全の確保を通じて、
地域の建設業の健全な発
展に大きく御貢献いた
してありますこと深く
敬意を表しますとともに、
昨年奄美地区を襲った台
風をはじめとする自然災

害時の復旧支援等の地域
貢献に御尽力いただき
ても心から感謝申し上げ
ます。
さて、本県の社会資本
整備については、限られ
た財源の効率的な活用
の観点から、「今後の社会基
盤整備のあり方」に基づき、
県勢の発展に大きく寄与
する「陸海空の交通ネッ
トワークの構築」や「県
民の生活と暮らしを守る
安全な郷土づくり」等の「重
点事業」を戦略的かつ集
中の展開するとともに、
地域の意向を伺いながら
進める「地域密着型事業」
についても、地域連絡会
における意見交換等を踏
まえて着実に実施してい

るところです。
工事発注にあたりまし
ては、多くの方々の受注
機会確保のため、分離・
分割に努めるとともに、
地元下請け業者の活用や
県産資材の優先使用にも
配慮しております。
また、これまで、一般
競争入札の拡大や総合評
価方式の試行を行ってき
ましたが、今後も入札契
約制度の透明性・競争性
の向上に努めてまいりた
いと考えております。
今後とも、地域の発展
のため、本県の土木・建
築行政の推進に一層の御
協力をお願いいたします
とともに、新しい年が、
皆様方にとりまして、希
望に満ちた、大いなる発
展の年になりますことを
心より祈念いたします。
新年の御挨拶いたします。

新春を迎えて

鹿児島県土木建築技監 西園 幸弘



新年、明けましておめ
どうございます。
平素より建築工事の安
全かつ適正な施工を通じて、
建築業の健全な発展のた
めに御尽力いただきお
りますこと心から感謝
申し上げます。
また、昨年、奄美地域
を襲った台風災害において、
被害の大きかった与論町
の応急修理のために技能
者を派遣いただくなど、

災害復旧に向けたご協力
をいただき、感謝申し上
げます。
さて、平成二十四年度
の建築関係工事については、
新規に着工した始良警察署
県営住宅原良団地、鹿児島
港新港区上屋などをはじめ、
学校、庁舎の耐震
改修等につきましても皆
様の御協力により順調に
進捗しております。
工事の執行にあたりま
しては、多くの地元業者
の受注機会を確保できる
よう、可能なものについ
ては工事の分離・分割発
注に努めているところで
す。今後とも、地域の建設
業者の積極的な活用や、
元請・下請関係の一層の
適正化等に取り組みんでま

いりますので、会員の皆
様方におかれましては更
なる技術の研鑽や、技能
の継承、経営の健全化に
努めていただき、本県の
建築・営繕行政の推進に
引き続きご支援ご協力を
お願いします。
また、県では県住宅供
給公社が供給する団地の
まちづくりの促進に努め
ているところであり、今
年も、分譲住宅の建設や、
宅地購入を予定されてい
る方のご紹介などに御協
力を賜りますようよろし
くお願い致します。
終わりに、本年も鹿児
島県建築協会のますます
のご発展と、会員の皆様
の御健勝・御活躍を祈念
いたしまして、新年のご
挨拶いたします。

新年のごあいさつ

鹿児島労働局長 井上 俊美



明けましておめでとう
ございます。
新年を迎え、社団法人鹿
児島県建築協会並びに会員
の皆様のご繁栄を心よりお
祝い申し上げます。
また、皆様には、日ごろか
ら労働行政に多大なるご理
解とご協力をいただきいてお
りますことに、厚く御礼申
上げます。

昨年、度重なる大型台
風の襲来や記録的豪雨によ
り、県民生活に甚大な打撃
を受けた年でした。
また、鹿児島県の景気は、
九州新幹線の全線開業効果
は維持しているものの、全
体として持ち直しの動きが
弱まっているなかで、日中
関係の悪化の影響も懸念さ
れ、雇用情勢も含め依然と
して厳しい状況が続いてお
ります。
鹿児島労働局としては、
このような状況下にあつて、
総合労働行政機関としての
役割を果たすべく、本年も労
働者が安心して健康に働け
る環境の確保、「雇用の安定」、

「労働条件の確保改善」、「男
女雇用機会均等」等の実現
を目的として、求職者支援
制度の推進、新卒の未内定
者に対する支援や仕事と家
庭の両立支援などの各種施
策を展開してまいります。
特に建設業の労働災害防
止対策については、貴協会
を含めた業界団体及び工事
発注者との連携や協力関係
を強化し、労働災害の撲滅
に向けた自主的な労働災害
防止活動が定着するよう、
貴協会並びに会員の皆様の
ご協力をいただきながら展
開することとしております。
また、建設雇用改善推進
助成金等の活用による建設
業労働者の雇用改善を図る
こととしておりますので、
本年も引き続きご理解とご
協力をいただきますようお願い
申し上げます。新年
のごあいさついたします。

市民の安心安全と 快適な生活を守るために

鹿児島市建設局長 上林房 行信



平成二十五年の新春を迎
え、会員の皆様にご慶
びを申し上げます。
未曾有の被害をもたらし
た東日本大震災の発生から、
まもなく一年十か月が経
つとしています。被災地では
現在も復興に向けた懸命な
取組が続けられていますが、
それと同時に、我が国ではエ
ネルギー政策や危機管理・防
災対策、さらには社会基盤整
備のあり方についても、根本
から見直そうとする動きが
広がっております。
このような中、年の瀬も迫
る昨年十二月、中央自動車道

笹子トンネルの天井板が崩
落し、九人の尊い命が失わ
れるという大事故が発生し
ました。
私はこの痛ましい事故発
生のニュースに、大変大きな
ショックを受けました。
近年、これまでに整備され
た公共施設やインフラ資産
の多くが、老朽化に伴い、大
規模な改修・更新の時期を迎
えつつあることは、これまで
も重要な課題として認識し
ていたところではありまし
た。今回の事故は、そのよ
うな状況が、もはや一刻の猶
予も許されない段階にまで
差し迫ってきていることを、
冷厳な事実として、私たちに
突き付けるものとなりました。
本市では、この度の事故を
受け、市道のすべてのトンネ
ルにおいて、目視や打音検査
触診等の点検を実施し、安全

を確認いたしました。
また、昨年四月にスタート
した第五次鹿児島市総合計
画のもと、既存の都市基盤施
設について、市民ニーズの変
化等をもとに、あり方を踏ま
えて有効活用を図るととも
に、計画的な維持保全などに
よる長寿命化等を推進して
いくこととしております。
少子化・高齢化が進行し、
人口減少局面へと移行して
いく中、本市が将来に向けて
持続可能な発展を遂げてい
くためには、まちづくりにお
いて量的拡大志向から質的
充実志向への転換を図って
いかななくてはなりません。
そのような認識のもと、本
年もすべての人が安全で安
心して快適に生活できる良
質な都市基盤づくりに積極
的に取り組んでまいります。
と考えておりますので、一層
のお力添えを賜りますよう
お願いいたします。新年
のご挨拶いたします。

支部 だより

原点は安全

鹿児島支部副支部長 中村 明人



新年を迎え、と、神社
仏閣で参拝を済ませた後、
一年の発展・健康・幸福を祈
り破魔矢・御札などを買う
光景が見られます。その中
には家内安全・交通安全等、
安全の文字が書かれたもの
が数多くあります。普段何
気なく使用している安全と
いう言葉ですが、日常他の
力での危害を受け、受け
る心配のない状態を意味す
るようです。参考までに
安全と衛生は対として用い
られますが、安全は事故に

よる災害を取り扱い、衛生
は疾病を取り扱います。と
ころで、安全という言葉は
食の安全・国の安全・生活の
安全等日常的に用いられま
すが、我々建設業におきま
しては安全帯、安全帯、安全
靴など自分の身を守る為の
用具が思い浮かびます。また、
スローガンである安全第一
は「セーフティーファイ
スト」を訳したもので我々
ではこの思想に基づき安全
運動が行われ定着したもの
で、建設現場や製造工場な
どで用いられています。産
業の発展、技術革新の進歩
は危険との戦いであり、共
存でもあると思います。また、
労働者の安全を優先するこ
とで士気が上がり結果的に
品質の向上も見込めると思
います。ちなみに、我々建築

「いぶすき菜の花マラソン」と私

南薩支部会員 川路 洋人



新年明けましておめで
どうございます。会員の皆様
には清々しい新年を迎えの
こととお喜び申し上げます。

「新春の訪れを告げる...」
のキャッチフレーズでお馴
染みの「いぶすき菜の花マ
ラソン」は、今年で三十二回
目を迎えます。文字通り国内
では年頭一番に早い大会と
して認知されています。特に昨
年は一月の八日開催で会社
の仕事始めから建設業組合
の合同祈願祭のすぐ後で、お

最初はゴール地点の補助
員。集合時間はゆっくりなの
ですが締め切りの六時になつ
ても解放してくれる気配は
ありません。おもてなしの
心が微塵も無かった当時は
苦痛でいっぱいでした。数年
して次からは駐車場の旗振
り係。朝五時集合のこの役目
は今でも続いています。
数年間の日、同じ年の
男性がこう言いました。「厄
払いの記念に菜の花マラソ
ンに出たいんだけど踏ん切
りがつかないんだよね。」私
「おう！まかせろ！同じ年だ

一緒にがんばろうよ！」飲
んだ席とは言葉余計な一言
でした。次の日から心を入れ
替え毎日トレーニング。だつ
たら良かったのですがつい
に一日も練習しないまま、つ
いでに懺悔すれば前の日は
博多で飲んだくれてそのま
ま出場。ゴールの締め切りを
はるかにオーバーしたホ
のゴール。ゴール地点の係の
方には多大な迷惑をかけた
ました。
昨年からは大きくなった
長男と次男も手伝ってくれ
ており、一緒にニット帽と光
る誘導棒を持ちながら駐車
場を走りまわっています。大
会当日、早朝からのことで不
機嫌に見えると思いが、
その通りです。私を見かけた
ら華麗にスルーしてくださ
い。でも、「おもてなしの心」
で待っています。くれぐれも。

新年のご挨拶

北薩支部支部長 重留 静



新年、明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えの事と存じます。

昨年四月に北薩支部支部長を拝命いたしました。責任の重大さを感念しております。

また、昨年十一月には建築士振興会と合同で伊集院にあります県の施設「ゆすの里」にてボランティア作業を行いました。扉の修理や営繕的な作業を行い、正月前と言ふこともあり、園の方から感謝の言葉を頂きました。今後は支部でも安全パトロールやボランティア作業を行い技術の向上等を図って行く事を検討しております。支部会員皆様の今後の御協力を宜しくお

願い致します。現在、建設業は景気が低迷しており、新しい政権には景気回復を強く期待します。また、最近高齢化が進み技術者や専門職の方が不足している状態です。

我々の仕事もかつて三Kと言われていた事も有りましたが、魅力ある職場に転換させ、若者が働きやすい場を作る事に、企業も努力して向上していく事が大事ではないでしょうか。

最後になりましたが、会員皆様方のご健康と事業の益々のご発展を御祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

曾於支部会員 坂口 正継



新年あけましておめでとうございます。会員皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。

さて、平成二十四年八月に成立した消費増税法により、平成二十六年四月・平成二十七年十月と二段階で消費税が引き上げられる予定です。消費増税引き上げ前に駆け込み需要が予想され

ますが、その一方、増税後はその反動で新築需要の落ち込みが懸念されます。景気低迷が長引く中、我々の業界は非常に厳しく、先行きの見えない状況です。

現在、我が国は少子高齢化や人口減少など多くの課題を抱えています。大隅の地でも少子化の波が届き、中学校の統合や高校においては募集停止や高校再編など子供たちの教育に関する環境も厳しいものとなっております。さらに、新規卒業者の就職に關しても依然として厳しくいろいろな課題が

多く残っております。我々といたしましても、より快適な就業環境を基本として、コスト削減・安全性を考慮して、鹿見島県産材料等の活用を配慮しながら施工に取り組んでいかなければならないのではと感じております。

新年のご挨拶

種子島支部支部長 芝 辰明



新年明けまして、おめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

建設業を営んでいるものの一人として、より魅力のある建築を目指し、頑張っていきたいと思っております。

今年こそ会員の皆様に明るい兆しが見えて参ります様、お祈り申し上げます。

新年を迎えて

始良・伊佐支部理事 末廣 浩二



新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、素晴らしい新年を迎えられたことと思います。

昨年は、原発問題での電力不足や年末の総選挙、また世界的には、ロンドンオリンピックやアメリカ、中国などの新体制、身近なところでは県内の進出企業の撤退など様々なことが起こりました。

個人的には、五十歳の節目を迎え、自分が生きてきた半世紀の変化を振り返ってみると、昭和の右肩上がりから絶頂のバブル期まで上昇し続けた日本も、今や先進国に悩まされ、いつの間にか国力自体も衰退し、中国の海洋権益や韓

国、中国、ロシアとの領土問題も厳しい状況にさらされています。日本企業も国内生産ではどうにもならず、空洞化が我々地元にも及ぶ時代になってしまっています。

今後の半世紀、経済や生活がどのように変化していくのか想像もつきません。ですが、自分たちが子供の頃、夢見たような世界、無線通信電話(携帯電話)、玉の切れない電球(LED)や手のひらで持ち運べる映像(TV)など夢物語が現実となったように、次の半世紀も明るい未来に期待を膨らませ、わくわくする時代になっていってほしいと考えます。

最後に、今年平成二十五年が明るい活気ある年になり、皆様方の繁栄とご健勝願ひまして新年の挨拶とさせていただきます。

鹿屋支部より

鹿屋支部支部長 梅木 一宏



平成二十四年は県内において、花形産業であった大手家電メーカーの工場が撤退を表明するなど、大変な不景気にみまわれました。

鹿屋市内でも同様で、五年前から衣料品関係などの誘致企業が数社、工場を閉鎖してパートを含めればおよそ一〇〇人の雇用が失われたと聞いております。

そこで、雇用創出のため、まずは冷え込んだこの景気の回復がなされなければなりません。ここ大隅半島においては、その起爆剤として東九州自動車道の早期実現が挙げられると思います。

岩川のやごろうインターから鹿屋までが、あと二年で供用開始となりますので、この主要産業の農産物や魚介類などの輸送時間や輸送コストが飛躍的に改善されると思われれます。

農産・漁業・畜産の一次産業が活気づけば、倉庫や畜舎などの建築工事も以前のように増加してくると思われれます。また、本土最南端の佐多岬のルートが南大隅町に移管されたことによる観光客の増加も見込まれ、鹿屋市のバラ公園を含めた観光施設の拡充などにも繋がっていくものと考えます。

いずれにしましても、一日も早い景気回復とそれに伴う建築業界の発展を期待しながら支部便りいたします。

「地域に根ざす建築協会」 奄美支部副支部長 政 和豊



謹んで、新年明けましておめでとうございます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

毎年、私も奄美支部では恒例のボランティア清掃活動を十一月中旬に行っています。

このボランティア清掃作業では、奄美市内の市営住宅団地周辺の植栽剪定、清掃作業等を行っております。特に近年は高齢世帯の多い団地を中心に綺麗な周辺環境を提供し、入居者の方々にすがすがしく心豊かに新年を迎えてほしいと思っております。

このボランティア作業で、多くの地域住民に大変喜んで頂き、また建築協会のアドバイザーや各会員事業所との連携にもつながりました。ボランティア作業が、参加者の心の清掃にもつながり、また新しい年に向けて一歩踏み出せる糧となる事でしょう。

最後に、今年こそ建築協会の発展と会員の方々のご健勝・ご安全を祈念致し新年の挨拶にかえさせていただきます。



平成二十五年

新春建築四団体合同賀詞交歓会

新春恒例の「新春建築四団体合同賀詞交歓会」が一月四日城山観光ホテルにて開催されました。初めに主催者を代表して建築協会会長前田正人が挨拶をし、来賓祝辞を頂き、来賓や各団体会長がハッピーを着て鏡開きが行われ、社団法人鹿児島県建築士事務所協会の林会長の乾杯発声の後、出席者はしばし懇談をしました。

今年で二十五回目を迎えた交歓会では来賓をはじめ建築四団体会員が多数出席し、盛大な催しとなり新年の門出にふさわしい輝かしい幕開けとなりました。



新入会員紹介

(平成24年5月25日より入会)

有村 満裕 (株)有村工務店
坂元 昭一 (株)共栄開発
阿野 和郎 (株)阿野建設

建築協会安全スローガン

見逃すな 慣れたら怖い 危険予知

(タテ)

育てよう 職場で取り組む 安全意識

(ヨコ)

タテ、ヨコそれぞれ1500円にて販売中です。(会員)の積極的な購入をよろしく願います。(工事現場の安全意識の更なる向上にお役立て下さい。)

年男のコーナー

年男(花のニツパチ)

(株)鶴留建設 鶴留 政博

〈昭和二十八年生まれ〉

新年明けましておめでとうございます。本年は巳年、年男の私は(一九五三年)昭和二十八年生まれです。二十八年生まれは、よく花のニツパチと言われ、巨人・大鵬・卵焼きの申し子としてベビーブームに生まれた団塊の世代と三十年以降に生まれた現代っ子の間に位置する体育会系と同好会系の両方の気質を持った世代のような気がします。

ちなみに、二十八年生まれは、どんな世界にも大物が多くと俗に言われ、有名な人が多いと聞きます。なぜ、花のニツパチと言われるようになったのか調べてみましたら、大相撲において昭和五十八年頃に活躍した、横綱北の湖・若乃花(二代)が昭和二十八年生まれであったこと由来するそうです。

今思えば、私達の子供の頃は、まさにテレビ時代の幕開けだったと思います。まず、皇太子(現天皇)のご成婚がテレビの普及に火をつけ、月光仮面や怪傑ハリマオ、プロレスは必見の番組でした。それ以外にもNHKで放映していた「夢であいましょう」も眠い目をこすりながら観ていた思い出があります。

また、少年マガジン、少年サンデーが創刊され、表紙を横綱や野球選手が飾り、遊びといえば、ダッコちゃん、フラフラプなど懐かしいものばかりです。

今、振り返ってみると、古き良き時代を築いてきた最後の世代なのかもしれせん。

今年も感謝の気持ちを忘れずに、健康に気をつけて仕事を精一杯頑張りたいと思います。

最後に、建設業界が活力を取り戻し、明るくなっていくことをお祈り申し上げます。

還暦に思うこと

(株)共栄開発 坂元 昭一

〈昭和二十八年生まれ〉



明けましておめでとうございます。平成二十五年が会員皆様にとって良い年になるようにお祈り申し上げます。平成二十四年通常総会に於いて新規加入者として、歴史ある当協会に入会させていただき本当にありがとうございます。今後は協会の名譽を汚すことなく会員融和をモットーに頑張つて参ります。

早いもので、今年六十歳還暦を迎えることになりました。一昔前は六十歳定

年男を迎えて

(株)桑原組 桑原 克幸

〈昭和四十年生まれ〉

新年あけましておめでとうございます。今回協会で自分年男なんて全然意識していませんでした。と同時に、もう四十八歳かとしみじみと思つてしまいました。自分が幼いころは、五十歳近い人々は近寄りたくないような大人に感じていましたが、今は周りが見て、どのように思われ

ているのだろうかと感じた次第です。巳年ということと少し調べてみました。原字は頭と体がでかかけた胎児を描いたもので、子宮が胎児をつつむさまを表す「包」と同じで、十二支の「巳」は、植物に種子がでるはじめる時期と考えられるそうです。また、草木の生長が極限に達して次の生命が作りはじめられる時期との解釈もあるそうです。何か、今の時代を象徴しているような気がしました。ここ数年、景気が停滞して、いろんな分野で伸び悩んでいるときに、

年男を迎えて

(株)吉満組 吉満 光二郎

〈昭和四十年生まれ〉



会員の皆様、明けましておめでとうございます。一九六五年、昭和四十年生まれ、巳年、四十八歳年男になります。

旧川内市に生まれ、小学校、中学校を地元で過ごし、宮崎県都城市の都城高専建築科を留年することなく無事に卒業、卒業後は、大阪に就職、設計事務所に入りたくて帰郷し、熊本の設計事務所を紹介していただき、再就職、出向先の沖縄勤務後に先輩に誘われて独立、事務所は、ぼつとん便所隙間風の木製窓、

衆議院の選挙があり少し変わりつつあると思います。今年、新しい日本が生まれるのではないのでしょうか。私も、鹿児島島に帰ってきて会社に入ってから十八年目になりました。私自身は土木出身なのですが、前の会社では建築の現場にもよく出入りしていました。その頃は、景気も良く元請・下請関係なくみんな活気があって楽しく仕事をしていました。時代の流れかもしれませんが、今は会社から我慢ばかりかかっています。今年「巳」の字が表わすように、個人的にはもちろん、会社も新しく成長をしていく一年にしたいと思っています。

世界情勢・日本の政治の動向はめまぐるしく変わりますが、皆さんとともに頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

えていただき、ものを造る時の信念や尊厳、造り上げた時の達成感を学びました。戦国時代の歴史が好きで、な小学四年生の息子と織田信長の話になり、本能寺の変で織田信長が自刃した年齢が四十九歳、混乱の日本を天下泰平の世をつくらうと、時代を切り開いて江戸時代へとつなげていった偉人、気が付けば同じ年代になつてしまいました。

「成長」とは、「物事が発達し大きくなること」とあります。常に成長をしつづけるためにも、ものを造る、建築を造る、まちを造る、スクラップ&ビルドの過程において、もの造りの喜びを次の世代へとつなげる、その「信念」をいつの時代にも持ちたいと思います。

最後に、今年一年が会員の皆様方にとっていい年であります様、祈念致します。

二〇二三年 巳年

昭和四十年生まれ

大塚 勝久 (株)大塚建設
 田代 藤夫 (株)田代組

政 頼子 (株)政建設

昭和二十八年生まれ

前田 正人 (株)三和建設
 千原 弘 (株)千原建設
 村中 義秀 (株)富士建設

昭和二十八年生まれ

桐原 芳行 (株)桐原建設
 萩原 秀俊 (株)萩原建設
 福地 眞 (株)大洲建設

昭和四十年生まれ

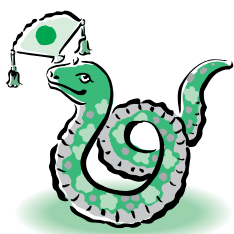
桑原 克幸 (株)桑原組
 吉満 光二郎 (株)吉満組

へびに関する豆知識

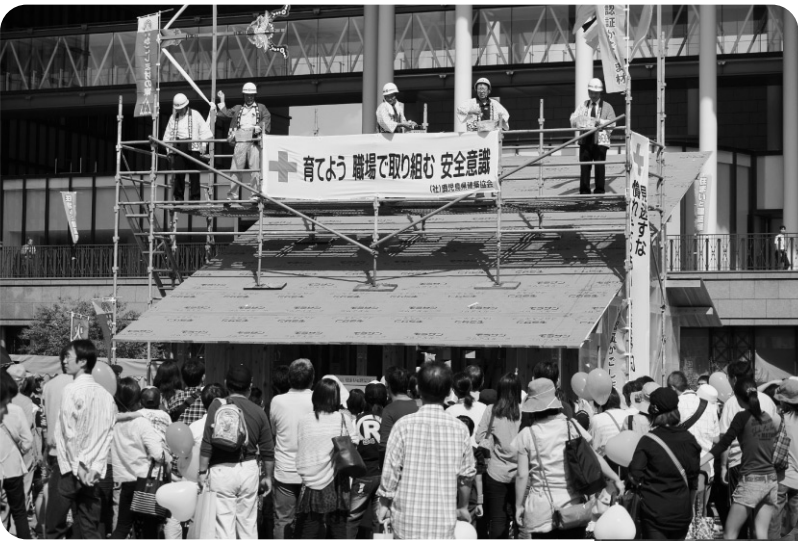
一回の産卵数は平均十〜二十個ほどで、最少は二個、最多は二シキヘビ類の百個余りである。ヘビは約四分の三が卵生ですが、それ以外はマムシ等の様に体内受精した卵が母体内で孵化(ふか)後、母体と密接な組織的結合をもたないまま、ある程度成長したのちに母体外に出る卵胎生である。

胴と尾の区別は、一般に鱗排出口から先が尾とされる。南極大陸を除く全大陸に生息している。

WHO(世界保健機関)のマークに用いられている(ギリシャ神話の医学神アスクレピオス)に由来する「へび」のマークは、酒家のことをうわばみともいいますが、これは大蛇という意味で、大きなものを九飲みしたり、日本神話に登場するヤマタノオロチが酒に目が眩んで成敗された事からそういわれるといわれています。



建築現場の体験学習 ▶
〈担当:研究開発委員会〉
(11月7日~9日)



▲かごしま住まいと建築展 ▶
〈担当:工事委員会〉
(11月20日)



▲合同安全パトロール〈担当:労務委員会〉
(11月21日)

建築の日ボランティア ▶
〈担当:建築協会各支部〉
(建築の日)



協会の動き



◀第51回通常総会
(5月25日)

第24回集団献血 ▶
〈担当:労務委員会〉
(7月20日)



リスクアセスメント及び
足場等実務者研修会
〈担当:労務委員会〉
(8月8日)



建築専門業団体との協議会 ▶
〈担当:研究開発委員会〉
(10月24日)



協会の 主な行事予定

- 二月
 - 建設業無災害運動月間説明会
- 三月
 - 各委員会

安全祈願祭

第三十六回安全大会

労務委員会の事業の一環である安全祈願祭及び第三十六回安全大会が鹿児島県護国神社にて開催され、約百名が参加しました。

★平成二十四年度社団法人鹿児島県建築協会会長表彰
功労賞
該当者なし

功績賞…六名

胸元 悟

(株)新生組

帖佐 孝生

(株)渡辺組

野老迫 隆

(株)新生組

前迫 英之

内村建設(株)

大山 哲史

内村建設(株)

上村 竜一

小牧建設(株)

各種表彰者の受賞は次のとおりです。
(敬称略)

安全衛生管理優良賞

大塚建設(株)

工事名:西紫原中学校

校屋内運動場新築本体工事

(発注者:鹿児島市)

新築本体(その1)

(発注者:鹿児島市)

牧迫建設(株)

工事名:本城住宅(仮称)

新築本体(その2)

(発注者:鹿児島市)

福元昭建設(株)

工事名:県立鹿屋農業高校寄宿舎大規模

改修(寄1-12番棟)

(発注者:鹿児島県)

(株)瀬戸山組

工事名:県立鹿屋農業高校耐震補強その他(特2番棟)

(発注者:鹿児島県)

個人賞(功績賞)

該当者なし

個人賞(職長賞)

該当者なし

善行賞

該当者なし

安全の誓い

本日、労働災害防止の安全祈願祭を執り行うにあたり、鹿児島県護国神社の大神の御前に、社団法人鹿児島県建築協会の会員を代表し、ここに労働災害の撲滅に努力することを誓い、施工現場の安全と、併せて事業の繁栄を祈願いたします。

大会宣言

労働災害の防止は、事業者の熱意と働く者一人一人の自覚と実践が必要であり、毎日の仕事の中で安全の基本を着実に励行し、地道に努力することが重要である。

我々は、労働災害の現状を厳しく受け止め、生命の尊厳を強く認識し、決意を新たにして労働災害の撲滅を目指して邁進することを誓い、ここに宣言する。

平成二十五年一月十七日
社団法人鹿児島県建築協会
建設業労働災害防止協会
鹿児島県支部建築分会

安全十第一



青年部会

新年のご挨拶

新年のごあいさつ



(社)鹿児島県建築協会青年部会 部長 有村 幸光

新年明けましておめでとうございます。平素は青年部会活動にたいして、多大なご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。青年部会は、平成八年

の設立より十八年目を迎えます。我々現役会員は今年一度、青年部会設立当初からの目的を忘れることなく、その志を継承し、さらなる青年部会の発展に尽力していかねばならないと思います。

さて、私たち業界を取り巻く環境は言うまでもなく非常に厳しい状況にあります。政権交代以降の近年は公共事業費も減少し、建設業は衰退し続けています。そしてそのような中、国の借金は増え続けています。このような状況を考えるとこの先も過去のような公共事業費の投資は大変厳しいと考えられます。

最後に、我々は「夢」多き青年です。その志は共有する事で友情を深め、力に満ち溢れ、想像を超えた成果を生み出し人は輝きます。会員一人ひとりが、生き生きと輝く事が大切です。ダイヤモンドはダイヤモンドによって磨かれます。人も人によって磨かれます。ダイヤモンドの磨き始めは傷つけ合う事から始まりますが、人も同じではないでしょうか。これを恐れず、互いに磨き合い行動すれば人は輝き、その輝きが青年部会をより一層輝かせ、そして未来の活力となり、今後の建築業界の新たな道が開けると思っています。

これからの会員一丸となって行動して参りますので、よろしくごお願い申し上げます。



総務・IT委員長 川崎 啓二



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。今年度は総務・IT委員長を仰せつかり、もうすぐ九ヶ月が経とうとしています。

残すところは新年会レクリエーション・懇親会の運営、2000誌春号の発行です。青年部会の会員が減少する中、部長、理事の方々に先頭に会員全員の集まり、結束を大事にしてきた一年だった気がします。二十五年度もより一層会員の皆様と結束を強めていけるような青年部会の活動にしていきたいと思えます。会員の皆様のご協力を頂きながら本年も頑張ります！



会員研修委員長 内山 吉二

新年あけましておめでとうございます。今年度当委員会の事業として、会員拡大事業「若手けんちくりーダーの集い」を開催いたしました。協会

ご入会いただけるよう活動して参ります。また今後の活動として、経営者講習会を予定しております。

本年も引き続き魅力ある会員研修事業を計画・運営すべく努めて参りますので、会員皆様方のご指導お力添えを賜りますよう何卒よろしくごお願い申し上げます。



活動委員長 宇都 孝洋

新年明けましておめでとうございます。活動委員会の委員長をさせて頂き、九ヶ月が経ちました。

今年度の活動としましては、例年行っている「かごしま住まいと建築展」学生招待とブース出展の二つの事業を行いました。学生招待では、若い世代に建築の楽しさや魅力に触れてもらうことで建築に関心をもち、業界の未来を明るくしていくことを目的とし

り、生き生きと輝く事が大切です。ダイヤモンドはダイヤモンドによって磨かれます。人も人によって磨かれます。ダイヤモンドの磨き始めは傷つけ合う事から始まりますが、人も同じではないでしょうか。これを恐れず、互いに磨き合い行動すれば人は輝き、その輝きが青年部会をより一層輝かせ、そして未来の活力となり、今後の建築業界の新たな道が開けると思っています。

これからの会員一丸となって行動して参りますので、よろしくごお願い申し上げます。

初めての経験でしたが、先輩理事の皆様や会員の皆様にお力添え頂き、勉強させて頂きました。事業としてしましては四月の総会・懇親会の運営・六月に会員手帳の更新・2000誌の発行と会員の皆様の総務の仕事に携わる事が出来ました。



平成24年度定時総会(総務・IT委員会)(平成24年4月23日)

会員の皆様と次代の担い手となる若手リーダーに「協力いただき、対象者へ事業への参加お声掛けをし、交流を深めさせていいただき有意義な事業となりました。引き続き若手後継者の方々に様々な青年部会事業へお誘いし、部会の魅力を伝え、



若手けんちくりーダーの集い(会員研修委員会)(平成24年9月21日)

今年度の活動としましては、例年行っている「かごしま住まいと建築展」学生招待とブース出展の二つの事業を行いました。学生招待では、若い世代に建築の楽しさや魅力に触れてもらうことで建築に関心をもち、業界の未来を明るくしていくことを目的とし



かごしま住まいと建築展「ブース出展」(活動委員会)(平成24年10月21日)

いただこうとブース内の充実を図りました。その結果、年齢、性別を問わず多数の方に来場していただきました。建築協会青年部会らしい形で建築展参加ができたいと思います。

これまでの事業の結果、反省を踏まえ、今後も鹿児島県の建築業界活性化に繋がり、より良いまちづくりへの原動力となる

青年部会会員募集
青年部会では会員を募集しています。詳細については、建築協会事務局までお問い合わせ下さい。

平成24年度 社団法人鹿児島県建築協会青年部会 組織図

会員52名

※印は青年部会理事

